

事業名	センター運営費			調書番号	42
細事業名	特定相談指導事業費	財務コード	092103		
担当部課室	福祉保健 部 障害福祉 課 心の健康 担当 (内線)	3202			

事業の概要			
実施期間	始期 S53 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	思春期、アルコール等に関連する問題で、一次予防も含めた心の健康相談等の支援が必要な人	・専門医師等の助言により問題が解消、もしくは治療等につながっている ・講演会等により思春期、アルコール関連問題等の知識が得られる	心の健康の回復とアルコール等依存症の予防
内容	事業概要 思春期精神保健に関する相談指導等 ・思春期コンサルタント事業: 専門医師等による思春期精神保健福祉相談、ひきこもり青年等へのグループ支援、研修会(ワークショップ)の実施等 ・アルコール等関連問題に関する普及啓発等: アルコール保健講演会、中・高校生を対象とした学習会の開催、依存症の家族を対象とした家族教室の開催		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)									
区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
活動指標	思春期コンサルタント 医師相談・所内相談件数、ひきこもりグループ支援回数、ワークショップ開催件数 アルコール保健講演会・学習会開催回数、家族教室開催回数	目標							
		実績(見込)							
		達成率							
		達成区分							
成果指標		目標							
		実績(見込)							
		達成率							
		達成区分							
決算(予算) 単位: 千円		938	757	886	732	998	1,179	1,179	

事業の評価(平成27年度の業績評価)		
活動指標	a	思春期コンサルタント事業における医師相談46回(活動予定量(以下同じ)44回)、所内相談477件(300件)、ワークショップ2回(2回)、ひきこもり青年等へのグループ支援65回(48回)を実施。また、アルコール保健講演会1回(1回)、学習会2回(2回)、依存症家族教室15回(15回)を開催。予定を上回る活動量である。
成果指標	b	思春期相談を受けた保護者からは、「子どもへの向き合い方がわかった」等の感想があるなど、心の健康の回復につながっている。また、相談をきっかけに精神科病院等の専門機関につながった事例もある。アルコール保健学習会に参加した生徒からは「アルコールの害を知った」「困った時は相談してよいことがわかった」等の感想があるなど、意図した成果を上げている。

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)	
関係与の 必要性	判定 <input type="checkbox"/> 必要性が高い <input checked="" type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い 説明 <input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input checked="" type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他()
	説明 様々な依存症等に関する予防の普及啓発、専門相談の充実が求められている。
有効性 (成果向上)	判定 <input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上は余り望めない 説明 精神保健福祉センターにおいて専門性の高い相談支援等を実施することで、対象者の心の健康の保持に繋がる。また、市町村等への技術支援を行うことにより、身近な地域において相談支援等が可能となる。
	判定 <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない 説明 <input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他()
その他	説明
見直しの必要性	無

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)	
現行どおり	説明

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。